

# 迎春

山武市長  
椎名 千収



昨年の地震津波に被災された市民の皆さまには、少しずつ日々の落ち着きを取り戻され、新たなお気持ちで新年を迎えられたこと存じます。本年が希望に満ちた未来への再出発の年になりますよう心から願っています。

日本という国の中で、これ程大きな災害を経験したからには、全ての国民が力を合わせ、長い年月をかけて祖国を立て直しに励んでいかなければなりません。

それは子供たちへの、そして日本の未来に対しての私たちの務めだと思えます。

気象現象などの自然環境が激化していますし、世界的な金融不安や国の莫大な借金、日本経済の競争力の低下など社会的な環境も厳しさを増しています。

地域社会も他力本願では難しい時代、自ら努力する時代に入りました。

私は、平成二十四年のお正月が厳しい時代の幕開けであることをしっかりと認識いたします。

その上で、市政を預かる者として、誰もが幸せに暮らせる山武市をめざして、悔いの残らない一年にいたします。

市民の皆さまは、地域の主人公でいらつしゃいます。この苦難の時代を乗り越えて山武市の未来を築くために皆さまのお力が必要です。共に汗を流して、素晴らしい年にいたしましょう。



# 新春のび、挨拶を申しあげます



山武市議会 議長  
萩原 善和

市民の皆様には、平成二十四年の輝かしい新春をお健やかに迎えのこととお慶び申し上げます。

また、日頃から市議会活動に温かいご理解とご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

議会改革の一端として議員定数を見直し、新たな二十二名でスタートした山武市議会も、もうすぐ一年を迎えます。

この一年は、地震や津波、台風などによる自然災害の多い年でありました。

特に、三月十一日に発生した東北地方太平洋沖地震により、我が山武市にも未曾有の被害がもたらされました。

近い将来、高い確率で発生が予測される東海地震や東方沖地震に対する備えの一つとして、市議会としても、九月定例会において山武市から旭市までの九

十九里浜沿岸に、減災機能を兼ねた道路整備を要望する意見書を内閣総理大臣をはじめ防災担当大臣や千葉県知事あてに提出いたしました。

また、市の復旧のために、全国各地から、多くの人が支援をしてくださり、人と人との「絆」について、改めて実感しました。

そのようななか、七月に行われたサッカー女子ワールドカップ大会決勝戦において、日本に初めての優勝をもたらしたなどしこジャパン。私たちに多くの希望と感動を与えてくれました。なでしこジャパンに負けじと、市民の皆様が希望をもって、生活ができるような山武市づくりをしていきたいと思えます。

市政を取り巻く社会経済情勢は、依然として厳しい状況が続いております。山武市議会とい

たしましても、市民の皆様の生活を守るためにも、皆様の声を市政の各分野に十分に反映させ、諸問題の解決に最善を尽くしてまいります。

本年も、市政ならびに市議会に対し、昨年にも増して温かいご指導、ご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、市民の皆様のご健勝とご多幸を心から祈念いたしまして、年頭のごあいさつといたします。

